

心に響く道徳の授業づくり

子どもの「心の元気！」が育つ道徳の時間をつくろう

平成17年度「心の元気！」1000人フォーラム 講評用補助資料

◆ 平成17年 8月10日 (水)

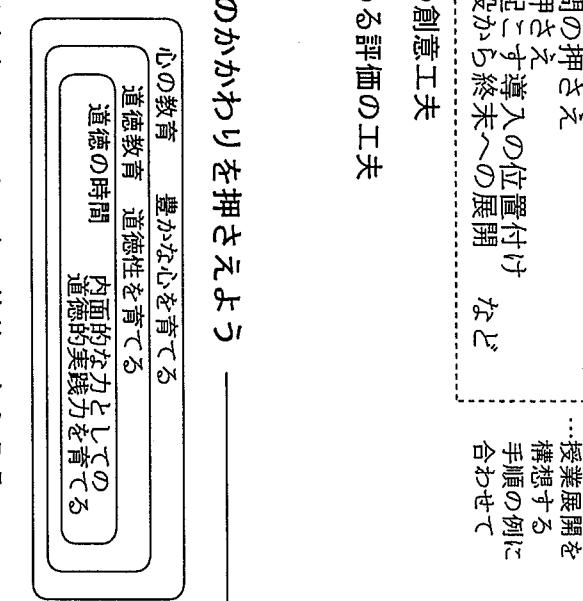
文部科学省初等中等教育局教育課程課 永田

※ 模擬授業から授業づくりの視点を学ぼう

- ◇ いま、求められる教育課題や、子どもの実態のとらえ
- ◇ 子どもの心を動かすための資料選択と資料の研究
- ◇ 子どもの意識の流れを大切にした授業の構想
 - ① 授業の中心テーマや中心的な発問の押さえ
 - ② 話合いで深める基本的な発問の押さえ
 - ③ 話合いの方向や問題意識を掘り起こす導入の位置付け
 - ④ 価値を温め意欲を膨らませる後段から終末への展開
- ◇ 子どもの追求に迫力を生むための教師の創意工夫
- ◇ ポイントを見取って無理なく的確に進める評価の工夫
- ◇ そのほか

1 道徳教育・道徳の時間と心の教育のかかわりを押さえよう

- (1) 心の教育と道徳教育の重なりと
違いを押さえる
 - ・基礎としての道徳教育
 - ・かなめとしての道徳の時間
- (2) 子どもの中に育つ道徳性「共によりよく生きる心の力」を一体的にとらえる
※ 小学校5・6年用「心のノート」の各視点の中扉を例にした一つの見方として



(3) 道徳教育という言葉が生きた心の教育の方向に着眼する

- 今自分の「これでよい」と感じる
- + 「もっとできる」と感じる
- <居場所・安心・癒し> <生き方・こころざし・本気…「心の力」>

2 子どもがその気になって学ぶ「学習」としての道徳の時間をつくろう

- (1) 道徳の時間が子どもにとって「楽しさ」と「面白さ」のある時間となっているか
 - ◇ 道徳の時間が好きではないという子どもの声
 - ・いつも…
 - ・どうせ…
 - ・やっぱり…
- ◇ 道徳の時間の「楽しさ」と「面白さ」はどこから生まれるか
- ・活動によって生まれる「楽しさ」・感動や知的驚きなどで生まれる「面白さ」

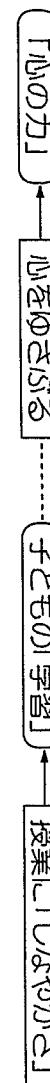
(2) 道徳の時間らしい授業をつくりだすために

道徳の時間は ◇ 共によりくなりたいといふ「心の力」を引き出す時間

◇ そのために子どもの心を動かし、「心を揺さぶる」時間

基本的な構え ◇ 子どもの視点を大切にした「学習」としての道徳授業を

◇ 子どもとともに楽しみながら、「しなやかさ」のある指導を



(3) 大切にしたい4つのキーワード

- ① 教師が「共感的理解」の構えをもつ~~~~~「受け止め、聞き、待つ」姿勢で
◇「教え込む」から「心を揺さぶる」へ—— 子どもの心が動く授業をつくる。
◇「身に付けさせる」以上に「引き出す」へ——
- ② 子どもにとつて「問題追求的」な学習とする ~「こだわり」を大切にする
◇子どもが問題意識をもつことができる授業 授業の入口の題材や発問の工夫
◇子ども自身の意識がつなげていく授業 開かれた自由度のある発問の工夫
- ③ 子どもの「共感的追求」を基盤にする~~~~~「心の体験」を大切にする など
◇共感から感動へ ◇共感から批判的な見方へ など
- ④ 子どもの「多様な価値観」を生かす ~~~~~「違い」を学び合いのチャンスに
◇子どもの考え方の違いや対立のうちで、どんな面を中心として生かすか構想する
◇多様な考え方の違いや対立のうちで、どんな面を中心として生かすか構想する

③ 道徳の指導案を、子どもの「学習」の視点から見直してみよう

- (1) 学習過程...指導過程が子どもの学習過程として、柔軟に考えられているか
子どもにとつて切実で問題意識があり、学習での追求意欲が高められる過程を見通す。
ただし、下記も参考例であり、主題や資料により柔軟に考えることを大切にする。

気付く → 考える → 交える → あたためる
気付く → とらえる → 深める → 見つめる → 広げる
価値への方向づけ → 価値の追求・把握 → 価値の一般化 → 価値のまとめ

- (2) 学習活動...活動の工夫を絞って位置付け、授業に楽しさをつくりだしているか
道徳の時間が「発表する→話し合う→聞く」というだけの学習にならないようにする。

- まねをしてみる(動作化)
- 劇づくりをする(劇化)
- 役割をもつて演技する(役割演技)
- グループで話し合う(小集団化)
- 討論する(討議形式)
- 手紙や吹き出しに書く(学習ノート)
- スピーチをする(発表形式)

- (3) 発言...子どもの反応する授業から発言する授業へと、心が動く面白さをつくりだしているか
考える必然性があり、子どもの個性的な考えが引き出されるような発問を置くよう心掛ける。
また、予想される発言例についても、羅列としないで、意味のある配列になるよう心掛ける。

- ①段階的、順序的に表す方法、 ②対立的、対比的に表す方法、 ③分析的に示す方法 など

- (4) 教師の手立て...授業の手立てについて一人一人を生かす視点から書き出されているか
留意点などの欄に「気付かせる」「捉えさせる」「つかませる」などの理解を促す表現が多く
見られるとき、押し付け的、教え込み的な感覺が強い授業となる不安もある。
指導上の留意点は、例えば、次のような内容を書き込んでいくことが中心となる。

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| ア 子どもが陥りがちな問題点での対応 | イ つまり、混乱しがちな点への対応 |
| ウ 資料の効果的な生かし方 | カ 学習活動の細かなレベルでの工夫 |
| オ 板書、教材教具の生かし方 | 子供の姿を見取る観点や方法、生かし方 など |

- (5) 評価...本主題全体や指導の過程等での評価の観点を考える…… (略)

4

道徳の時間の基盤を踏まえながら、指導の可能性を広げよう

（★①を基盤として、その指導の充実を大事にした上で、②の工夫を広げることを大切にしていく…）

（1）読み物資料を中心にして、多様な道徳資料を生かす ……………… 「資料を拓く」

〔①心に響く読み物資料を中心とする…（資料のジャンルを広げる、自作や開発を試みる等）
〔②資料を多様に選択し、開発する…（資料のジャンルを広げる、自作や開発を試みる等）〕

（2）資料での追求を軸にして、指導方法を多面的に発想する ……………… 「方法を拓く」

〔①資料での追求を促す発問を軸にする（多様な追求の筋道や指導方法、活動の工夫を考える等）
〔②指導過程や指導方法を多様に拓く…（多様な追求の筋道や指導方法、活動の工夫を考える等）〕

（3）学級担任の計画的な指導を中心として、多角的な指導体制をもつ ……… 「人間を拓く」

〔①学級担任が指導することを中心とする
〔②多様な指導体制を一部に織りこむ…（協力的指導、校長や教頭の参画、地域講師の協力等）〕

（4）1時間1主題を軸とした上で、指導時間を柔軟に考える ……………… 「時間を拓く」

〔①1時間1主題の計画的指導を軸にする
〔②指導時間の組み方を多様に発想する…（45分を超える指導、複数時間扱い、他教科等との関連を図った指導等）〕

（5）教室での授業を通例としながら、指導場所を柔軟に考える ……………… 「空間を拓く」

〔①教室の中で行う授業を中心とする
〔②主題に応じて効果的な指導場所を柔軟に考える…（教室空間の工夫、教室以外での授業等）〕

5 魅力的な道徳資料を発掘し、開発してみよう

◆作成上のテクニック的なポイント

- ※ 教え込み的なものになりすぎない工夫 …… 例：切実感や感動性を生み出す
- ※ 多様な考えが期待される場面の設定 …… 例：考え方などを語りすぎない
- ※ 実話としてのよさを生かす上での配慮 …… 例：補助的な資料を生かす
- ※ 読んで授業のイメージが湧きやすいもの … 例：筋の展開にメリハリがある 等

こんな資料が、いま、求められる

- ◎ 子どもが自分の課題を見付けることができる資料 ……………… よりよく生きる

- ◎ 共生社会を見据えた資料（競争社会から支え合う社会への先導役）… 共に生きる
 - ・命、支え合う心、思いやりなどが1つの軸として織り込まれたもの
 - ・命の体験、ボランティア体験等への手がかりを生むものなど

- ◎ 今の自分、今の時代を考えられるフレッシュな迫力と魅力のある資料
 - ・感動的な資料
 - ・リアルな資料
 - ・問題提起的な資料

- ◎ 子どもの思いと教師の意図に合わせて柔軟に扱うことができる資料
 - ・1時間1主題からの一部脱出
 - ・総合的な学習の時間との一部関連
 - ・関連的に扱える資料、中心的な資料と補助的な資料（素材）の組合せ

- ◎ その他
 - ・情報公開の中での保護者、地域の理解（時には協力）を得られるもの
 - ・情報ネット等を生かして発展的に学べる可能性のあるものなど

参考 配慮事項（生命尊重の内容の資料等において）

- ・「死」の問題を授業でどう扱うか…事件性のあるものと、事故性のあるもの
- ・病気とたたかう人に関する資料の問題
- ・人権的な配慮が行き届いているか…少年法にかかる問題、公正さに関する問題
- 障害のある人とない人のかかわりでの問題

6 子どもの「学び」を豊かにするための実践的指導力を高めよう

教師力	授業力	指導力
-----	-----	-----

- (1) 資料提示の工夫 ◇想像、共感をかき立て、子どもを道徳資料の世界へ引き込む
・子どもの資料読み取り、視聴や思考に傾注できる配慮を
・道徳資料が含む聞を生かし、資料提示にメリハリを
・寓話（物語等）と実話（ノンフィクション等）で異なる工夫を
- (2) 発問の工夫 ◇子どもの心を動かし、多様な考えを引き出す
・子どもの問題意識が生み出され、生かされるような発問を
・考える必然性や切実感があり、心を揺さぶる発問を
・発言の自由度があり個性的な考えが引き出される発問へと絞る
- (3) 話合いの工夫 ◇子ども相互に多様な考え方を学び合い、深め合う
・子ども相互の心の様子、考えの違いや立場が見えやすい配慮を
・場を組織化することも考え、子どもも相互の交流を
・話合いルールは創造的な話合いを制約することのない中で
- (4) 表現活動の工夫 ◇一人一人の考えが引き出され、一層深められる
・役割演技、動作化、疑似体験活動、劇化等の違いを押さえて
・演技の巧拙への関心や興味本位に流れないような配慮を
・思考の深まりが逆に阻害されるような活動にならないように
- (5) 書く活動 ◇個別化の中で個性的な考えが深められる
・書く場面、書く形式、書く回数を柔軟に考え、絞り込む
・子どもの価値観の多様さをどのように引き出すかを押さえて
・記述内容の段階的、形式的な評価は馴染まないことを踏まえて
- (6) 板書の工夫 ◇子どもの思考を深める共通の「ノート」として生かす
・共通のノートとして、考えの違いが映し出される工夫を
・右から左への川流れ的板書を超えた構造的板書を大切にして
・教師の作品ではなく、子どもと共に作り出す感覚をもつて
- 7 子どもの教材「心のノート」の活用をうながし、広げよう**
- 大人がプラス志向に受け止めて、楽しむ気持ちで生かしてみよう
少しの共通理解と、大人一人一人の創意工夫を組み合わせよう
- (1) 平成17年度用「心のノート」(小学校第1・2年用)の部分改訂(補訂)について
- 〔 ◇ 全体で8ページ増
〔 (プラス志向を促す・かかわりを考える・生命を考える・自由な活用を促す)
〔 ◇ 子どもを「心のノート」に誘い、工夫と自由な活用がイメージできるページの設定
〔 ◇ 現行の内容の若干ページの部分改訂〕
- (2) 子どもの活用を広げるために常に心を留めたいこと
- ① 道徳の時間の一部に織りこむ場合とオリエンテーション的な機会やまととの機会を
⇒通常は授業の一部に織りこむが、まとまった時間をつくって活用するときもつくる
- ② 心の対話ができる風土づくりと一人一人のプライバシーなどへの配慮を
⇒一人一人の事情に十分に配慮しながらも、見せてもらえるような学級経営をする
- ③ 一緒に用いる機会を生かして一人一人が違う個性的なノートになるような援助を
⇒子どもが自由に用いることのできる環境と自由な書き込み時間をつくる など
- 8 おわりに：道徳教育で子どもに「生きることの楽しさ」を伝えよう**
- ◎ スロー・カードが育てる個性、自分らしさ、名人、マニア(料理人)
◎ ゆめは「となえる」だけではなく、「かなえる」ためのもの

参考補助資料

参考1

中央教育審議会・第47回総会 中山文部科学大臣あいさつより

●はじめに <略>

●第1 教育改革の基本理念 <略>
〔「人間力向上」のための教育改革〕 (「陸れ、日本！」) (今後の審議事項)

●第2 義務教育改革の推進について <略>

●第3 教育課程の基準全体の見直しについて

(基本的な考え方)

次に、こうした義務教育の改革においても、特に重要な課題の一つとなる教育課程の基準全体の見直しについて、私の考えているところを申し上げます。

学習指導要領については、不断の見直しを図っていく観点から、平成15年5月に、「今後の初等中等教育改革の推進方策について」の包括的な諮問を行ったところであります。以来、同年10月に答申を提出いただき、それに基づき同年12月に学習指導要領の一部改正を行いました。また、昨年3月からは、各教科等の専門部会を設置し審議いただいています。

今日、変化する社会の中で子どもたちを取り巻く環境も大きく変わってきてています。子どもたちの学力には低下傾向が見られ、学業や職業に対して無気力な子どもたちも増えています。規範意識や体力・気力にも課題が見受けられます。私としては、こうした状況を踏まえ、21世紀を生きる子どもたちの教育の充実を図るために、教育の資質能力の向上や教育条件の整備などとあわせ、国

の教育課程の基準である学習指導要領全体の見直しが必要であると考えております。

私は、知識や技能を詰め込むのではなく、基本的な知識や技能をしっかりと身に付けさせ、それを活用しながら自ら学び自ら考える力などの「生きる力」をはぐくむという現行の学習指導要領の理念や目標に誤りはないと考えています。ただ、そのねらいが十分達成されているか、必要な手立てが十分講じられているか、ここに課題があると考えます。

私自身、文部科学大臣に就任以来、幾つかの学校を訪問し、教員や保護者、子どもと対話する「スクールミーティング」の機会などを通じて、現場の関係者の率直な御意見を伺い、検討課題を整理してまいりました。

(学習指導要領の見直しの観点)

学習指導要領の見直しに当たっては、次のような観点から幅広く御検討いただきたいと思っております。

第一に、「人間力」向上のための教育内容の改善充実についてで

あります。

この点については、社会の形成者としての資質、豊かな人間性と感性を育むとともに、健やかな体を育成することが必要と考えます。道徳教育や藝術教育の改善、体力、気力の向上、食育の充実等を含め、御検討をお願いいたします。

学力の向上については、世界トップレベルの学力の復活を目指した教科内容の改善充実について、御検討をお願いいたします。

特に、全ての教科の基本となる国語力の育成、さらに、基本的な学習内容の定着を目指す理数教育の改善充実、外国語教育の改善充実について、十分に検討が必要であると考えております。

第二に、学習内容の定着を目指す学習指導要領の枠組みの改善についてであります。

この点については、各教科等において、子どもたちが身に付けるべき資質・能力の到達目標の明確化について御検討をお願いいたします。

また、全国的な教育水準の確保と教育の機会均等などの観点から、国民として共通に必要な学習内容の示し方について御検討をお願いいたします。

授業時数等の見直しについては、各教科及び総合的な学習時間の授業時数の在り方、学校週5日制の下での土曜日や長期休業日の取扱いなどについて御検討をお願いいたします。

第三に、学ぶ意欲を高め、理解を深める授業の実現など指導上の留意点についてであります。

個性や才能を伸ばす教育の推進、補充的な指導の必要な児童生徒への教育の在り方、教科書や指導方法等の改善がわくわくした気持ちで授業に取り組めるような方策、わかる授業の実現に向けた方策について御検討をお願いいたします。

第四に、地域や学校の特色を生かす教育の推進についてであります。

この点については、地域の文化・伝統や学校の実態などを踏まえ、その特色を生かす教育の推進、学校と家庭、地域社会との関係の在り方などについて、御検討をお願いいたします。

これらの観点についての基本的な方向性については、義務教育の在り方の検討と関連して、本年秋までに御報告をいただきたいと存じます。

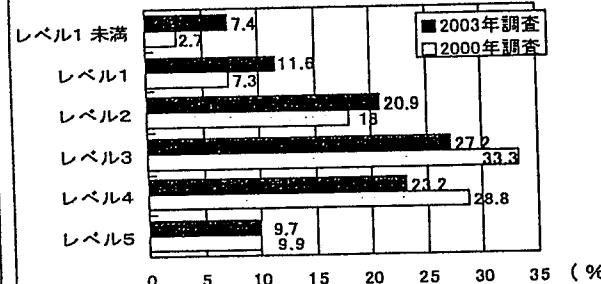
●おわりに <略>

子どもたちの学力の状況

学力は低下傾向

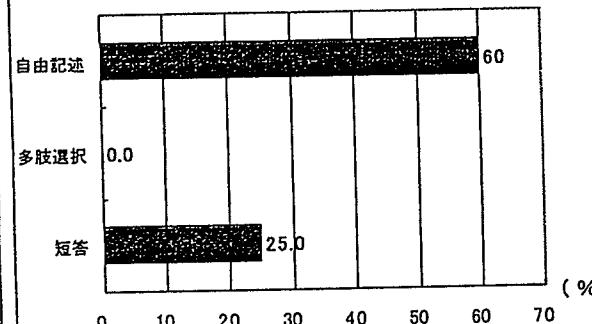
○国際学力調査(PISA)

読解力に関する児童生徒の習熟度別分布



読解力に関する無答率

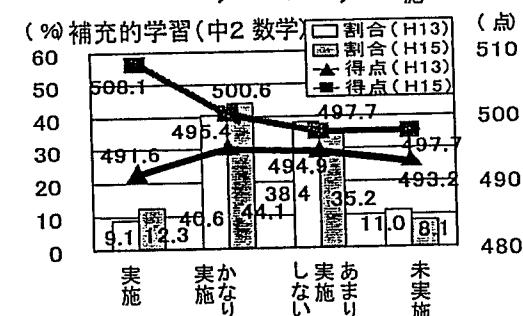
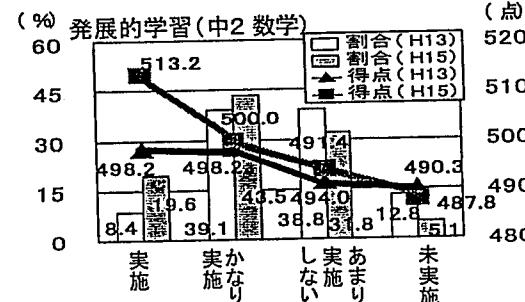
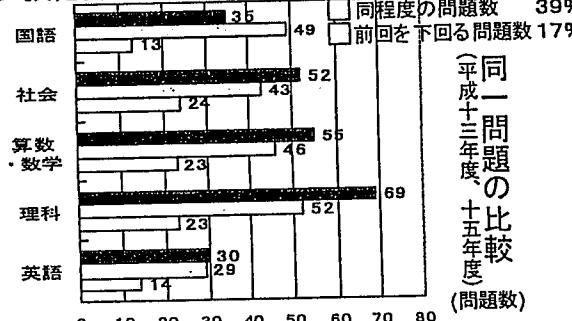
(OECD平均より5%以上高い問題数の割合)



読解力・記述式は特に課題

若干の歯止め

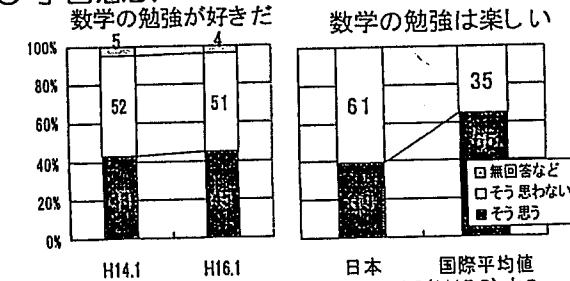
○教育課程実施状況調査



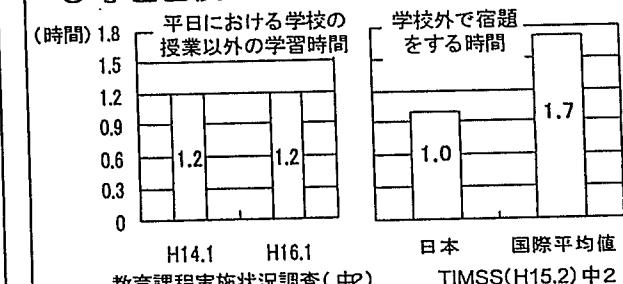
基礎知識の更なる定着を図る必要

学習意欲等なお課題

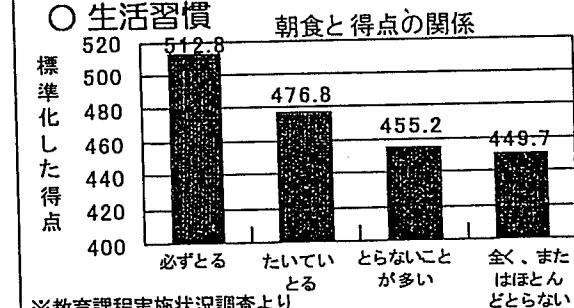
○学習意欲



○学習習慣



○生活習慣



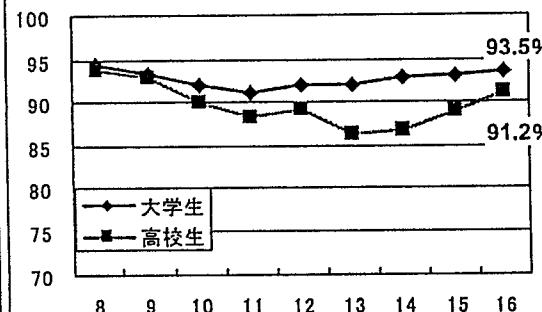
※教育課程実施状況調査より

学習習慣等の更なる改善が必要

依然として厳しい就職状況

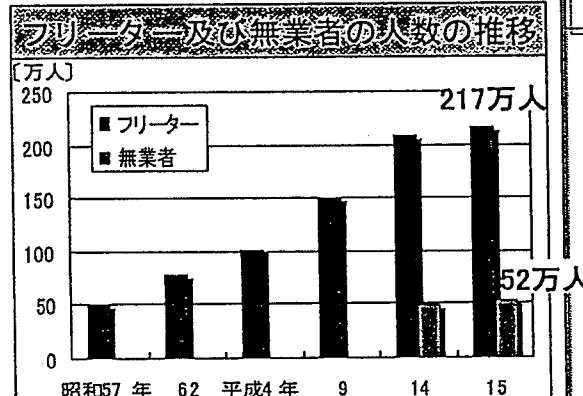
高校生及び大学生ともに改善の傾向はあるが、地域間の格差が目立つなど、依然として厳しい状況

高校生及び大学生の就職率の推移
(高校は3月末、大学は4月1日現在。)



〔文部科学省及び厚生労働省調べ〕

フリーター及び無業者ともに増加傾向



〔平成16年版労働経済の分析〕より作成〕

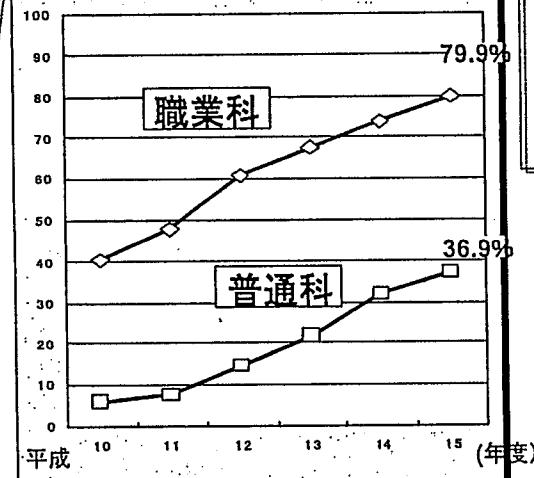
若者自立・挑戦プラン

〔平成15年6月〕

若者自立・挑戦戦略会議
(文部科学大臣、厚生労働大臣、経済産業大臣、経済財政政策担当大臣)

目標: 平成15年から3年間で
若年失業者等の増加傾向を
転換

公立高校におけるインターンシップの実施状況



キャリア教育等の推進

宿泊自然体験等の推進

「豊かな体験活動推進事業」等を通じ、一週間以上の実施を推進
平成16・17年度: 長期宿泊体験推進校88校を指定
例: 山村に出かけ、林業体験等を実施
自然の家で牧場体験や野外炊さんなどを実施

職場体験学習の全国展開

効果例: 一週間程度の職場体験を通じ、職業に対する関心・意欲の高まりや学習意欲の向上、不登校生徒の登校率の上昇等

就業体験(インターンシップ)の推進

普通科高校: H15年度 36.9%
→19年度までに5割で実施
専門高校: H15年度 79.9%
→19年度までに概ね10割で実施

「目指せスペシャリスト

(「スーパー専門高校」)の推進
平成15~17年度: 全国33校を指定

工業高校による地域の伝統技術の継承等

「実践的総合キャリア教育」の推進

自治体、企業等の協力を得て、インターンシップをはじめとする体系的・組織的なキャリア教育を支援

青少年の体験活動等の推進

「学び直し」の機会の提供

「義務教育に関する意識調査」結果の速報について（ダイジェスト）

I 学校教育に何を求めているか

- 学校教育で身に付ける必要性が「とても高い」能力や態度(上位3位)

【大人】

	1位	2位	3位
保護者	小学生 教科の基礎的な学力 77.2% (3.74)	人間関係を築く力 69.6% (3.65)	善悪を判断する力 61.2% (3.54)
	中学生 教科の基礎的な学力 78.0% (3.73)	人間関係を築く力 65.2% (3.60)	自ら学ぼうとする意欲 58.5% (3.48)
教員	小学校 担任 教科の基礎的な学力 84.1% (3.87)	人間関係を築く力 70.2% (3.70)	自ら学ぼうとする意欲 67.2% (3.66)
	中学校 担任 教科の基礎的な学力 88.0% (3.88)	人間関係を築く力 70.5% (3.65)	自ら学ぼうとする意欲 67.4% (3.64)
学校評議員	教科の基礎的な学力 71.7% (3.69)	自ら学ぼうとする意欲 56.1% (3.49)	善悪を判断する力 51.0% (3.40)
教育長	教科の基礎的な学力 87.5% (3.86)	自ら学ぼうとする意欲 73.4% (3.69)	善悪を判断する力 68.1% (3.62)
首長	教科の基礎的な学力 87.8% (3.87)	自ら学ぼうとする意欲 71.0% (3.66)	善悪を判断する力 60.0% (3.53)

() 内は、「とても高い」を4点、「やや高い」を3点、「やや低い」を2点、「とても低い」を1点とした際の平均値

【小・中学生】

	1位	2位	3位
小学生	よいことと悪いことを区別する力 74.1% (3.67)	まわりの人と仲よくつきあう力 72.1% (3.65)	たくましく生きるためにの健康や体力 66.3% (3.58)
中学生	よいことと悪いことを区別する力 64.7% (3.57)	まわりの人と仲よくつきあう力 64.5% (3.57)	自分の考えを言葉で伝える力 55.9% (3.48)

() 内は、「とても必要」を4点、「まあ必要」を3点、「あまり必要でない」を2点、「全く必要でない」を1点とした際の平均値

- 家庭教育など学校教育以外で身に付ける必要性が「とても高い」能力や態度 (上位3位)

【大人】

	1位	2位	3位
保護者	小学生 善悪を判断する力 68.5% (3.62)	基本的な生活習慣 68.0% (3.60)	社会生活に必要な常識 63.8% (3.57)
	中学生 基本的な生活習慣 69.9% (3.62)	善悪を判断する力 68.1% (3.61)	社会生活に必要な常識 65.7% (3.58)
学校評議員	善悪を判断する力 61.8% (3.54)	基本的な生活習慣 61.4% (3.51)	社会生活に必要な常識 57.7% (3.47)
首長	善悪を判断する力 72.0% (3.65)	基本的な生活習慣 69.2% (3.62)	社会で役立つとする心や公共心 63.4% (3.57)

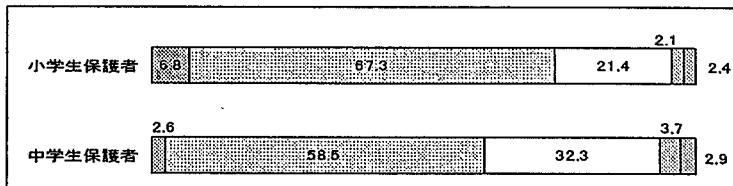
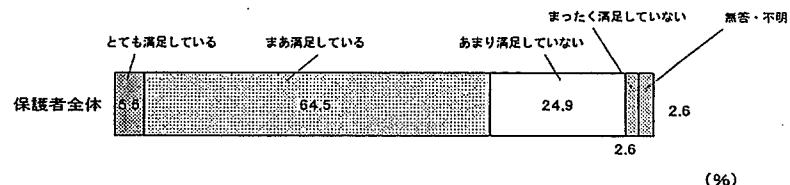
() 内は、「とても高い」を4点、「やや高い」を3点、「やや低い」を2点、「とても低い」を1点とした際の平均値

II 実際の学校教育についてどのように感じているか

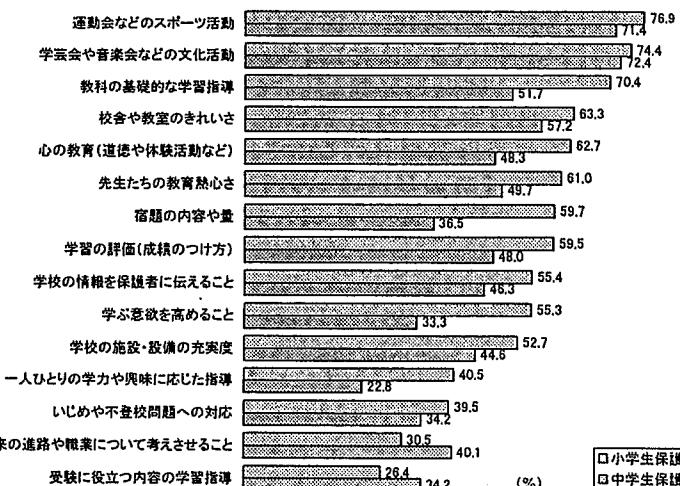
- 学校への満足度

【保護者】

① 学校の総合的な満足度



② 各々の指導や取組みに対する満足度（「とても満足している」「まあ満足している」の合計）

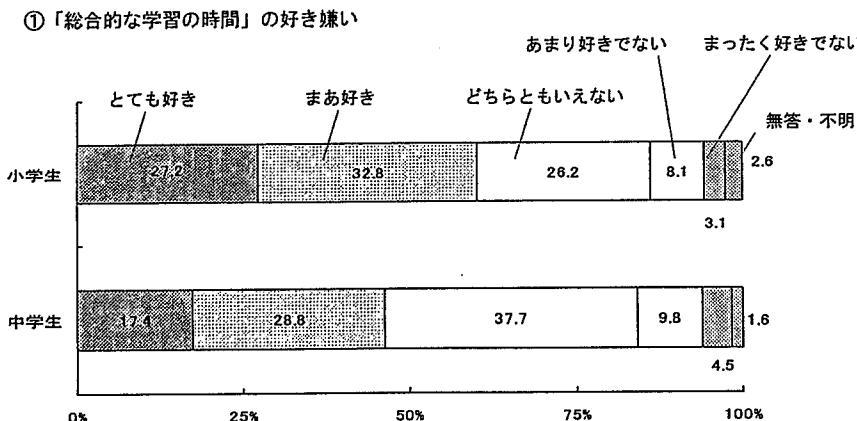


□ 小学生保護者
□ 中学生保護者

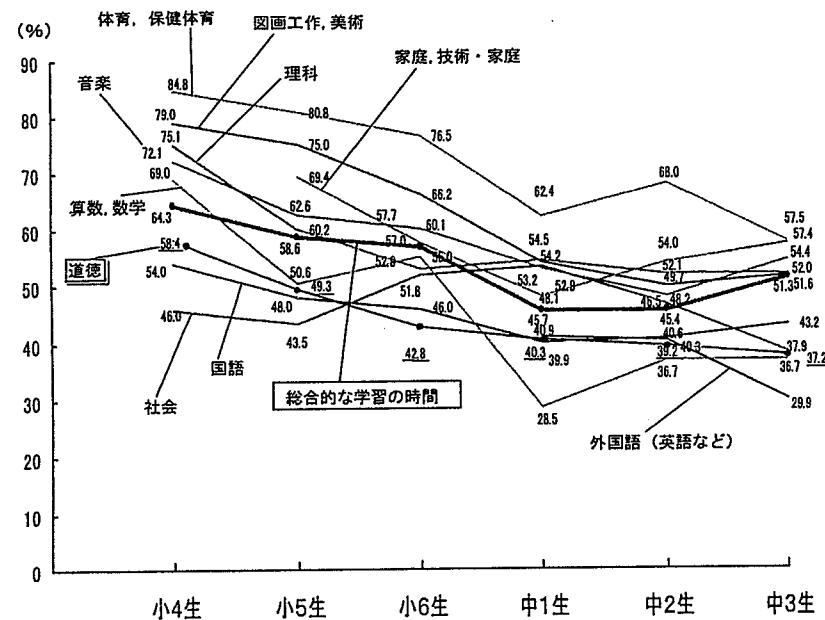
III 学校外での生活はどうなっているか

● 「総合的な学習の時間」について

【小学生・中学生】

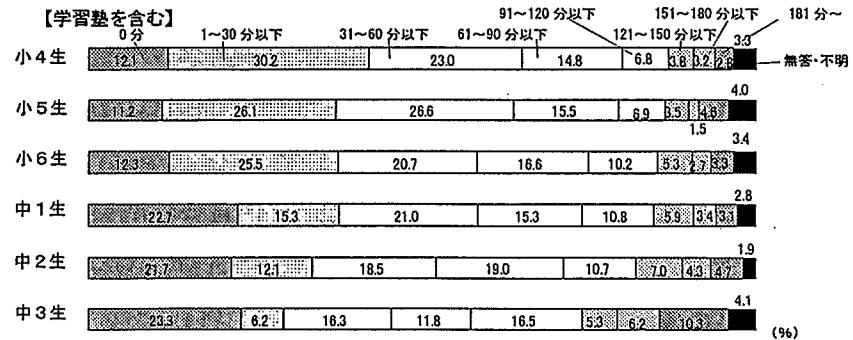
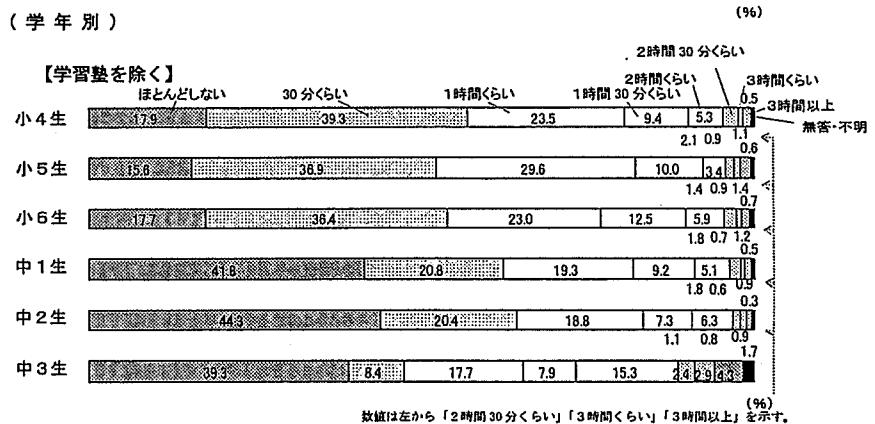
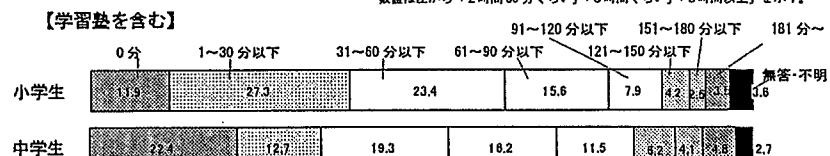
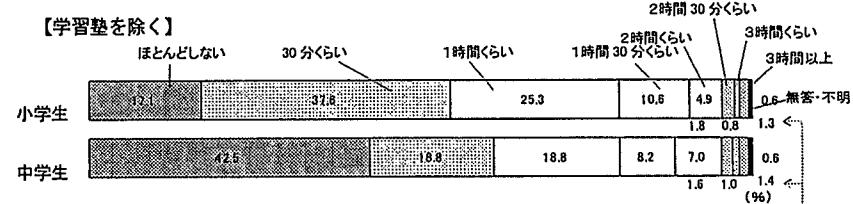


(参考) 教科等の好き嫌い（「とても好き」「まあ好き」の合計）



● 平日の家庭学習時間

(学校段階別)



※「学習塾を含む」のデータは、通塾の状況に関する別の問への回答を合わせて算出した推計値である。なお、「0分」に分類されるのは、学習塾に通っておらず、かつ家庭学習時間について「ほとんどしない」と回答した者である。

道徳の時間の指導案の工夫の視点からの創意工夫

文部科学省初中局教育課程課 永田

学習指導案作りの手順に則して、指導方法の一層の改善の視点について考えてみたい。

1 指導過程＝学習過程を描く

道徳の時間は、学習指導の流れの基本を押さえながら、子どもにとつて切実で課題性があり、学習意欲が高められる過程をどのように描くかが大切になる。学習指導の流れを子どもの意識の流れや問題追求の筋道を想定しながら描いたとき、指導過程は学習過程となる。ただし、下記も今までにも、例えば、次のように様々な言葉でその流れが表現されている。ただし、下記も参考例であり、描いた学習過程を彈力的に考えることを大切にしたい。

気付く → 考える → 交える → 深める → 見つめる → 広げる
価値への方向付け → 価値の追求・把握 → 価値の一般化 → 価値のまじめ共通化 → 焦点化 → 内面化 → 意識化 → 意識化

2 学習活動の表現を工夫する

道徳の時間の学習活動は、「導入では「発表する」、展開段階では「話し合う」、そして終末では「聞く」ことが中心となりがちである。道徳の時間を「発表する→話し合う→聞く」というだけの学習にしないようにするためにには、例えば、次のような活動を取り入れる工夫が考えられる。

・まねをしてみる（動作化）	・役割をもつて演技する（役割演技）
・劇づくりをする（劇化）	・グループで話し合う（小集団化）
・手紙や吹き出しに書く（学習ノート）	・スピーチをする（発表形式）

これらの他にも「探す」「作る」「調べる」などの活動を一部に織り込む可能性も考えられる。

3 子どものつぶやきを予想し発問を構想する

子どもの疑問やこだわりを予想した上で、考える必然性があり、子どもの個性的な考えが揺さぶられるような発問を置くように心掛けたい。また、予想される反応例についても、思いついた内容を並べていくだけにすることは避け、子どもが自ら「発言」する内容、あるいは、「子どもの意識の流れ」の視点から整理するとよさそうである。例えば、下記のような方法がある。

- ①類型的、類別的に表す方法、②対立的、対比的に表す方法、③順序的に示す方法など

4 一人一人を生かす指導上の留意点を考える

留意点などを書く欄に「～に気付かせる」「～を捉えさせる」「～を感じ取らせる」などの表現が多く見られることがある。道徳の時間は資料で何かを教えることに重点を置くとき、押し付けの感覚が強まる。読解的な留意点は、内容によって必要なときもあるが、慎重に考えるようにする。指導上の留意点は、例えば、次のような内容を書き込んでいくことが中心となる。

ア 子どもが陥りがちな問題点での対応	イ つまずき、混乱しがちな点への対応
ウ 資料の効果的な生かし方	エ 学習活動の細かいペルでの工夫
オ 板書、教材教具の生かし方	カ 子どもの姿を見取る観点や方法、生かし方など

この角度から留意点を書く場合、「具体的に何をどうするのか」という表現になることが多い。

5 本主題の評価の観点を押さえる

道徳の時間の指導案では、評価の観点を置かない場合が一般的であった。それは、道徳の時間のねらいは向上目標的であり、「心の内面の変化を見取るのは難しい」、一時間での変化を期待するのは、行為の変化を押し付ける指導になりかねない、などの理由からである。しかし、学習指導要領でも、子どもの取組の様子、心情面の深まり、遊び合いの豊かさなど、数値に表れない面での評価は、むしろ積極的に行うことを探めていく。例えば、次のような観点での評価はていねいに行い、それを学習指導や事後指導などに生かすことが大切である。

○ 学習への構えや意欲…自分の考え方をもち、進んで表すなど、意欲的に話し合ったか。
○ 学び合いや考え方の深まり…他の考え方を学び合い、自分の考え方を深めていたか。

少なくとも、「～が分かったか」「～が理解できたか」などの認知的な評価や、「～ができたか」「～が身に付いたか」などのような行為の変化を見取る評価は馴染みにくい場合が多い。

道徳の時間の実践的指導力を高めよう（指導の工夫の着眼点）

文部科学省初中局教育課程課 永田

① 資料提示の工夫 … ◆想像、共感をかき立て、子どもを道徳資料の世界へ引き込む

- 【多様な方法例】
 - ◇大型絵や紙芝居等を用いる方法 ◇パネルシアターによる方法
 - ◇黒板を劇場の舞台のようにして提示する方法
 - ◇テレビ、プロジェクター、録音等の視聴覚機器を生かす方法
 - ◇補助資料（实物や写真、効果音等）を生かす方法
 - ◇地域講師等の参画を得る方法 など
- ← ・工夫を絞って生かし、子どもの資料読み取りや視聴に備注できる配慮を。
 ・道徳資料が含む聞を生かし、資料提示にメリハリを。
 ・寓話（物語等）と実話（ノンフィクション等）のそれぞれの特質が生きた工夫を。

② 発問の工夫 … ◆子どもの心を動かし、多様な考え方を引き出す

【効果的な発問】

- ◇子どものこだわりや問題意識が生かされ、生み出される発問
- ◇発言の自由度があり、個性的な考えが生かされ、引き出される発問
- ◇考える必然性や切実感があり、心が揺さぶられる発問 など

← ・子どもの目を見て発問し、発言を傾聴し、うなづいて受け止める構えで。
 ・発問しつ放しにせずに、対立、練り上げ等を引き出す補助的な発問も加えて。

③ 話合いの工夫 … ◆子ども相互に多様な考えを学び合い、深め合う

【対応の工夫例】

- ◇心の様子や考えの立場の色、類別、グラフ等による視覚化
- ◇多様な意見、きっかけとなる意見を引き出す意図的指名 など

【場づくりの例】

- ◇座席配置で立場を鮮明にする工夫 ◇ペアを組んだ話合い
- ◇全体討議的な形態、グループ討議的な形態の工夫 など

← ・教師が子どもの発言を繰り返すことは必要最小限にするように努めながら。
 ・学級で話合いのルールは創造的な話合いを制約することのない中で。

④ 表現活動の工夫 … ◆一人一人の考えが引き出され、一層深められる

【多様な方法例】

- ◇役割演技……特定の役割をもつて即興的演技から深める方法
- ◇動作化……動きを忠実に真似をして実感的な理解を深める方法
- ◇疑似体験活動……セットされた条件の中での追体験的な活動
- ◇劇化……台詞や演技の真似をして状況や心情を感じ取る方法
- ◇人形劇……人形や紙人形を持って演じながら語る方法 など

← ・伸び伸びと表現できる環境づくりと、演技の巧拙への関心に流れない、ようやく自然で発展的な思考の深まりが逆に阻害されるような活動にならないように。

⑤ 書く活動の工夫 … ◆個別化の中で個性的な考えが深められる

【多様な方法例】

- ◇吹き出しを付けた形式 ◇自分のことを伝える手紙の形式
- ◇作業的、ゲーム的な内容を組み入れた形式
- ◇自己評価欄を置いた形式 ◇絵や記号等でかく形式 など

← ・書く場面、書く形式、書く回数を柔軟に考えて、子どもの負担への配慮を。
 ・何を書いても認められる雰囲気を大切にして、段階的な評価とならないように。

⑥ 板書の工夫 … ◆子どもの思考を深める共通の「ノート」として生かす

【多様な方法例】

- ◇話合いの中心部分を特にクローズアップした構成
- ◇意見の違いが捉えやすく類別化、類型化されて示された構成
- ◇子どもが参加できる構成 ◇黒板を劇場の舞台のようにした構成
- ◇画面絵や顔絵、心情図や心情曲線などを生かした構成 など

← ・右から左への川流れ的板書を超えた構造的板書を大切にして。教師の力を込めた作品ではなく、子どもと共に作り出す自由度ある板書として。
 ・教師の力を込めた作品ではなく、子どもと共に作り出す自由度ある板書として。

道徳の時間の評価を考えるために（参考図）

文部省初等教育課桂籍 水田

■ 図 1 道徳の時間における
多様な評価対象の開拓

```

graph TD
    A["『子どもについての評価』"] -- "↓" --> B["子どもの学習状況"]
    A -- "↓" --> C["子どもの道徳性"]
    B -- "→" --> D["取組の姿勢、発言、記述、表現、学び合いなど"]
    C -- "↔" --> D
    C -- "↔" --> E["道徳的価値の自覚の深まり  
道徳的実践力の高まり"]
    E -- "↔" --> D
  
```

The diagram illustrates the relationship between various evaluation objects in moral education over time. At the top is a box labeled "『子どもについての評価』". Two arrows point downwards from this box to two separate boxes: "子どもの学習状況" on the left and "子どもの道徳性" on the right. From "子どもの道徳性", two double-headed arrows point to a larger box at the bottom labeled "取組の姿勢、発言、記述、表現、学び合いなど". This large box also receives a double-headed arrow from "道徳的価値の自覚の深まり
道徳的実践力の高まり", which in turn has a double-headed arrow pointing back to "子どもの道徳性".

関連

《指導や計画の評価》

```

graph TD
    A[《指導や計画の評価》] --- B["指導の諸方法"]
    B --- C1["話し合い、作業、表現活動など"]
    B --- C2["学習指導過程"]
    B --- C3["展開の組立て、構成、発問など"]
    B --- C4["年間指導計画"]
    C1 --> D1["道徳の全体計画等"]
    C2 --> D2["道徳の全体計画等"]
    C3 --> D3["道徳の全体計画等"]
    C4 --> D4["道徳の全体計画等"]
  
```

※上記の他に、「道徳的問題の理解」や「道徳的問題・行為の評議」といった見点として項目立てする事例も見られる。

図4 評価の欄を置いた道徳学習指導案 (第5学年)の例

- | 学習活動の流れと主な発問など | 学習の様子を見取る視点 | 指導上の工夫・留意点 |
|--|---|---|
| 1 「自由だな」と思えるときにどんなときがあるか話し合う。 | △自由について、各目の黒いが年齢に出され、関心を高めている。 | ・自由への思いがよう、明るいでの導入を図る。 |
| 2 貢献「うつはれられた自由」を読み、カリューと王子の気持ちを比べて話す。
「本当の自由」とはどんなものだろう | △話し合いいたい方向に子どもの関連意識が向かっている。
△王子と共に感じて多様な思いを実感している。 | ・気に伝ったことについてそれをようにする
・必要に応じて隠してミニ会話を設けて、多様な表現を出す。 |
| 3 自分の自由に対する考え方と比べてどんな感じを感じるか話し合う。 | △自分なりの自由についての考えを引き、及ぼすと比べている。
△(同上) | ・学習シートに各自由でえられるおもてやる予前知識もそれを参考にする。
・子どもの発想を尊重して、考え方を評価しないようする。 |
| 4 「本当の自由をもっと大切にしなくては」と思ったことをどこで思い起こす。 | △自由にかかる体験を想起したり、人の体験に耳を傾けたりする。 | ・各自の自由を愛護する行動を示す。
・自分の大切さを認識する。 |
| 5 「心のノート」P.18~19のメッセージを読めて読み、各自が感想をつ。 | | |

■ 図3 指導に王が「事前の実感化」達成のための質問紙（例）

- | | |
|---|-------|
| ■ あなたは「自由」についてどのように
考えますか? | |
| ◎自由とは… | |
| ◎そう考えるわけは… | |
| ●図5 道徳の時間についての子どもの
自己評価（例） | |
| ●今日の道徳の時間の学習は… | ◎一〇～一 |
| 時間を使にしないで集中して取り組みましたか。 | |
| 資料を出てくる人の立場にたって考えられましたか。 | |
| 感じたことや考えたことを発表したいと思いましたか。 | |
| 友達の考え方を深めるのに役立ちましたか。 | |
| 本当の自由について、自分の考えを説明できそうでしたか。（この項目は授業ごとに要る） | |
| 授業の中で感じたこと | |
| 考えたこと | |

参考8

保護者や地域の人々が参加・協力する道徳授業の工夫

文部科学省初中局教育課程課 永田

道徳教育を進めるに当たっては、…家庭や地域社会との共通理解を深め、授業の実施や地域教材の開発や活用などに、保護者や地域の人々の積極的な参加や協力を得るなど相互の連携を図るよう配慮する必要がある。
<小学校学習指導要領第3章道徳第3の4>

■ 授業の多様な工夫の例

(1) 保護者の協力や参加を得る工夫（例）

ア 保護者が話し合いの中に加わる…保護者が子どもとともに立場で参加し、意見を述べ合ったりする場をつくる。保護者が子どもに語るべき体験談は子どもにかかわりの深い心に響く話となる。家庭の協力を得る…例えば、家庭での子どもの様子、小さい頃の話、励ましのメッセージを手紙に書いてもらうなど、子どもの家族での取材に協力を呼びかけたりする。

(2) 地域の人々を招いて進める工夫（例）

ア 中心的な資料となる話として…保護者が子どもとともに立場で参加し、意見を述べ合ったりすることによって、講師の生き方や体験がより深く心に響く。地域の人々を招いて、話し合いを中心に…主題や資料での追求を深めるために…ある人を招いて、話し合い…特に、講師の生き方や体験がより深く心に響く。保護者が子どもとともに立場で参加し、意見を述べ合ったりすることによって、講師の生き方や体験がより深く心に響く。保護者が子どもとともに立場で参加し、意見を述べ合ったりすることによって、講師の生き方や体験がより深く心に響く。

イ 中心的な資料として位置付ける。そこで質問をしたり、感想を交えたりして、さらに話し合うことにより深く心に響く。

ウ 中心的な資料となる話として…保護者が子どもとともに立場で参加し、意見を述べ合ったりすることによって、講師の生き方や体験がより深く心に響く。

◆道徳の時間での地域講師の効果的な生かし方(例)

導入	展開
◇動機付けとなる話…問題意識のわく話や価値への方指向付ける話をしていただく。	◇中心的な資料として…講師自身の体験や考え等を中心的に話していくだけ。講師本人に関する補助資料を用意して話し合う。講師本人に関する補助資料を用意しておこしなどが有効。
◇中心的な資料の追求を深めるために…資料に関する体験等や、資料内容の解説などをお願いする。また質問を受けたり話し合いに入ったりしていったく。資料と類似の職業の人や、共通の体験をもつ人などを招くことが有効。	◇実演や模擬体験的な活動の援助として…より実感的な理解を深めるために実演や子どもの模擬体験の補助などをする。時間幅の考慮等が重要。
◇まとめると、話題となる話や依頼する。参画場所に残る時間が必ずしも十分でない場合、十分でない場合の確保なども見られる。時間の確保の中で複数回に渡りかかるようにするとともに、一時間の中でも複数回の一つである。	◇体験を十分に話していくだけの後には、体験を語っていたく。子どもたちの道徳的価値の自覚を促す力になる。などなど
その他	◇音声や映像で ◇事前・事後の取材活動で など

■ 保護者や地域の人々の参画に際しての主な配慮点

- ◇必要な打ち合わせ…授業のねらいや趣旨を講師に伝え、必要な打ち合わせをする。
- ◇生き方がじみ出る工夫…体験活動や教科等の学習で講師として招く場合との違いを押さえ、特に講師自身の生きざまがじみ出てくるような話となるようにお願いする。
- ◇時間の確保…講師に話していくだけ時間を一定程度確保し、重要な学習活動の一部として、できるだけ展開段階で加わっていただけるように工夫することも考える。
- ◇相互作用のあるかかわり…話を聞くだけの一方的、受け身的なものとせず、質問や話し合いなどのかかわりができる場ができるだけ確保する。
- ◇計画への位置付け…次回には講師が都合が悪くて来られないことも含み、例えば文章資料や映像資料などを用意して、年間指導計画への位置付けについても考えられるようにする。などなど
- ◇なお、その場合には、著作権や肖像権の問題が生じないよう配慮する。

「心のノート」を学校の教育活動に生かす

文部科学省初中局教育課程課 氷田

- ⑥ 「心のノート」を生かすことによって、子どもが、自分のイメージをより豊かにして、自分を一層好きに、大切に思うようになる。
- ⑦ 子どもが、「よりよく生きたい、共に生きたい」という前向きな思いを温める。

■ 「心のノート」の生かし方を振り返り、これからのために役立てる

「心のノート」の生かし方、振り返りのポイント例 <1つずつクリアできるように…>

- | | | |
|----------|---------------------------|--------------------------|
| アイウエオカタク | 子どもがいつでも使えるようにしているか | <input type="checkbox"/> |
| | 日常生活の中で折りにふれて取り上げているか | <input type="checkbox"/> |
| | 子どもと活用の仕方を話したり個別の助言をしているか | <input type="checkbox"/> |
| | 道徳の時間ではじめ学習の中で生かされているか | <input type="checkbox"/> |
| | 学校としての生かし方の方向が共通理解されているか | <input type="checkbox"/> |
| | 計画などに生かし方が柔軟に位置付けられているか | <input type="checkbox"/> |
| | 冊子の趣旨や生かし方について保護者等に伝えているか | <input type="checkbox"/> |
| | 子どもが家に持ち帰られるように配慮をしているか | <input type="checkbox"/> |

■ 子どもの「心のノート」の活用を促すために、その生かし方を広げる

子どもの「心のノート」の活用を広げる3つの段階 <1つの目安として柔軟に受け止める>

学校の学習の中で		日常生活等の中で	学校と家庭・地域で
●まずやってみよう	○道徳の時間の一部で生かしてみよう	○学校生活の中で取り上げてみよう	○家庭に持ち帰るときをつくりう
●活用を広げよう	○各教科・特別活動や総合的な学習の時間などで生かしてみよう	○学校や学級の掲示資料などで生かしてみよう	○学校の通信類や保護者会などで呼びかけたり話題にしたりしてみよう
●さらに創意工夫をしよう	○「心のノート」を生かした楽しい企画などを進めてみよう	○子どものファイル作りなどの創造的な活用の支援をしよう	○公開授業や地域懇談会などで生かして地域の関心を呼ぼう

※ 進め方によっては、3段目の企画やイベントなどがきっかけとなって気運が盛り上がる場合もある。

1 きっかけとしての取組：「まずやってみよう」 ◇どの学校、学級でも行つてみたい取組

- ① 道徳の時間の一部で生かす……道徳の時間の一部で見通しをもつて柔軟に生かすことを大切にする。年度区切れる時期などに、まとめて用いるのも効果的である。
- ② 学校や学級の掲示環境などに生かす……廊下に「心のノート」の広場などを作る。また学級に掲示コーナーを作る。子どもが「心のノート」を日常的に見るきっかけとなる。
- ③ 家庭への通信類や保護者会などで生かす……学校からの発信の機会に織りこむ方法などを考える。「心のノート」の図柄やメッセージを生かして関心を呼び起こすことができる。

2 広げるための取組：「活用を広げよう」 ◇教育活動全体へと広げるための取組

- ① 各教科、特別活動、総合的な学習の時間などで生かす……例えば、学級活動では生活習慣や人間関係の指導、総合的な学習の時間では学習テーマ探しなどのように広く生かす。
- ② 学校や学級の掲示環境などに生かす……朝や帰りの会などの一部で、スピードタイム、書き込みタイムなどを作成する。また、生活の中で折にふれて話題にする。「書いてみよう」などと呼びかけて持ち帰るようにする。
- ③ 家庭への通信類や保護者会などで生かす……学校からの発信の機会に織りこむ方法などを考える。「心のノート」の図柄やメッセージを生かして関心を呼び起こすことができる。

3 発展的な取組：「さらに創意工夫をしよう」 ◇教師の工夫などによる創造的な生かし方

- ① 「心のノート」を生かした楽しい企画などをを行う……「心のノート」のメッセージを生かして歌を作る、朗誦会や学年交流会をするなどのアイデアが考えられる。
- ② ファイルづくりなどの創造的な活用を支援する……「心のファイル」「じぶんのノート」と子どもの記録ノートや作品綴りと併用して楽しく充実させる方法などがある。
- ③ 公開授業や地域懇談会などで生かす……例えば、道徳授業を公開し、「心のノート」を用いる場面をつくるなどする。心の教育について共通の関心を深めることができる。

「心のノート」1・2年用冊子の一部補訂の趣旨等

「心のノート」には、①子ども一人一人が自ら学習するための冊子、②子どもの心の記録となる冊子、そして、③学校と家庭との「心の架け橋」となる冊子、という3つの特徴がある。今回、1・2年用の「心のノート」の一部補訂に当たり、この3つの趣旨を踏まえるとともに、次のような観点から改善を加えた。

◇小学校入学期への対応……入学したばかりの子どもが、「心のノート」に出会い、自ら心を育てる

ことの大切さをイメージでき、いろいろな場面で活用できることを分かりやすく表す工夫をする。

◇現在の教育課題への対応……子どもの心の成長にかかわる問題を踏まえ、子どもが生命のかげがえのなさを感じたり、人とかかわる力を高めたりすることに一層賛するよう、子どもが生命や人とのかかわりについてイメージを膨らませることができるような内容を加える。

◇書き込みのできるページや枠の増設……子どもが1年・2年の各学年で自分の考えなどを生かして活用できる自由記入のページや、子どもが作業して楽しくなり考えたりすることのできるペー

ジや枠を増やす。

これらの観点から、以下に説明するように、新たにページを加えたり、より使い易くなるように工夫をしたりした。

子どもが「心のノート」を活用し、自分らしさを膨らませ、人と一緒にかわろうとする心を育てるため

に、学校として、見通しのある生きかし方を工夫することが大切である。

●「心のノート」(1・2年用)の新しい目次を見る

うつくしいことをそなえてよう

●1・2年用「心のノート」のメッセージ

生きているね。つながっているね。
かがやいているね。

●生命について見方や考え方をより豊かにしたり、深めたりするために。

このノートのつかい方

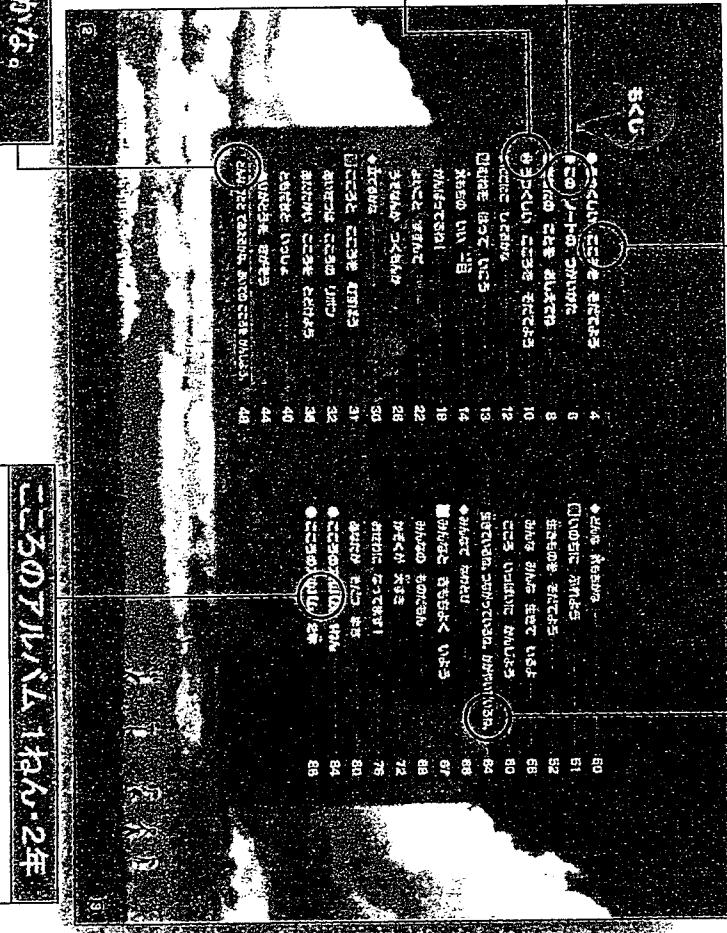
- 子どもが様々な活用の仕方にについてイメージをもつことができるようになる。

うつくしいことをそなえてよう(四つ葉のページ)

- 内容の全体図を四つ葉のイメージでリニューアル。

どんなひとと あいての こころをかんじよう。

- 様々な人の出会いやかかわりを楽しむができるようになる。



こころのアルバム 1ねん・2年

- 自由に書き込むことができるページの一層の充実。

6-7頁

「心のノート」が、いつでも、どこでも、何度も自由に楽しんで活用することができる冊子であることを確かめられるページ。

■ 様々なイラストを生かし、子どもが自発的に学習していくことへの期待感とイメージを膨らませることができるようしたい。



48-49

それぞれの場所でどんなかわりがあるのか、じっくり見て探してみる。すると、それぞれの人たちの話合いを想像することができる。



家と畠など、様々な場所や地域で大人と子どもや子ども同士の様々なかかわりが描かれている。これから、一人一人がかかわりのイメージを自由に広げていくことができる。

受け継がれる私たちの生命。そのつながりの大切さを感じ取ることができる。

サケは産卵のために海からふるさとの川に戻り川上へ。満身創痍になりながら産卵した後は死ぬ。情報を加えるなどして話し合うことも考えてみたい。

64-65頁

一人一人に好きな色を塗っていると、その人への共感が深まる。色が塗られると、人物が画面の中に馴染んでいくような不思議さを味わうことができる。

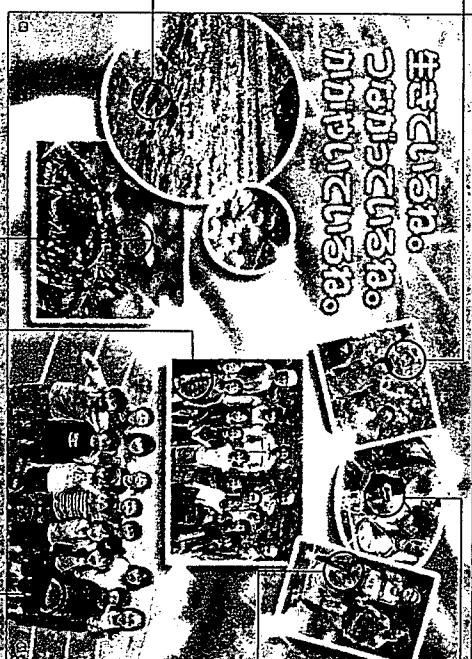
この絵にはない多様な人のかかわりを、このページを参考にして、別の紙に自由に書いてみるのも楽しそうだ。

一つのことに真剣に取り組む子どもとお年寄り。こうして、心がつながり、文化も受けつがれていく。

子どもたちの心の居場所としての学級の仲間、多くの友達の支え合いの中で自分自身も元気に育っていく。子どもはそれぞれに自分の学級の仲間とのつながりを感じる。

地域の中で育つ自分。多く
の大人の支えに感謝しながら一人一人が自分の生
命をはぐくんでいることを感じたい。

朽ちた木の株から新たな芽が伸びている。この倒木と芽生えの様子は、自然の中の生命と生命のつながりを私たちに強く感じさせる。



魅力的な道徳の授業をつくるポイント

魅力的で多様な道徳の授業を構想しよう

魅力的で多様な道徳の授業を構想するポイント

道徳の授業が子どもの心に響き、やりがいのあるものになるようにするためには、次のような点に配慮しながら授業の構想に臨むことが大切である。

- ア 道徳の時間の特色や役割を明確にして構想する。
- イ 授業の構想を表現する学習指導案を、教師の思いが表れるものとする。
- ウ 多様な道徳資料を生かすように努める。
- エ 子どもの発達段階や実態を柔軟にとらえて学習活動を構想する。
- オ 学習の場、時間、指導体制、学習集団などを工夫する。

道徳の時間については、子どもが本気になって取り組む優れた実践が多く見られる一方で、例えば、形式化した指導や徳目を教え込むにとどまるような指導が、問題点としてよく挙げられる。その結果、「資料や話がつまらない」「はじめから分かっていることしかしない」などと、子どもの心の内奥に届かない授業になっている場合も少なくない。

(1) 道徳の時間の特色や役割を明確にして構想する

道徳の時間には固有の役割があり、それを押さえる必要がある。そのためには、指導の基本的な方向を明らかにし、学習指導案の内容や表し方も創意工夫されなくてはならない。それを踏まえた上で、授業をより魅力的で多様なものになるように努力したい。

① 道徳的価値の自覚を大切にした学習指導過程

道徳の時間は、子どもが自分なりの問題意識をもって資料などと出会い、学び合いを通してねらいとする道徳的価値についての自覚を深め、自分を見る目や周囲の人への共感を豊かにしていく時間であるといえる。道徳の時間の学習指導過程としては、右のような流れが一般的に見られるが、学習内容

一般的な学習指導過程	
導入	…主題に対する興味や関心を深めて、学習への課題をもち、意欲を高める
展開	…資料による話し合いや自分自身を見つめることを通して、ねらいとする道徳的価値の自覚を深める
終末	…話し合いをまとめたり道徳的価値に対する思いや考えを温めたりして、今後につなげる

や子どもたちの実態などに応じて柔軟に工夫することが大切である。

特に展開段階では、子どもが資料の世界に入り込んで登場人物の行為から感銘を受けたり、自分自身を振り返ったりして道徳的な問題を追究する。さらに、それを自分たちの生き方の問題としてとらえていく中心的な学習場面である。このことを押さえ、授業の進め方を工夫することが大切である。

② 教師のねらいや意図を表す学習指導案の工夫

学習指導案は教師の授業の設計図であるといえる。教師はねらいを達成するために、主題設定の理由や意図、資料のとらえ方、学習過程などを、教師の意図を最も表しやすい形にすることが大切である。したがって、学習指導案の基本的な柱立てに教師の考えを加味したり、流れ図やイラストを生かしたりして、見る人にとって分かりやすい案になるよう心掛けることが求められる。

例えば、展開の大要をどのように表現するかについて考えるだけでも、右図のように様々な形式の枠組みを発想することができる。

学習指導案の特色化

- ・学習指導案の柱立てに授業の特色を出す
- ・学習指導過程の表し方や、展開を書く枠組みなどに教師の考えを出す
- ・体験活動や他の教育活動、事前、事後の指導とのかかわりなどを明記するなど

指導過程	学習活動・発問と予想される発言	指導上の留意点
学習過程	子どもの心の動き	教師の指導と評価
段階	学習活動と主な発問	子どもの発言
子どもの意識の流れ	教師のかかわり	評価の観点・資料等

展開の大要の枠組みの例

(2) 用いる資料を多様に考え方工夫して生かす

資料は、道徳の時間の主題を構成する大きな要素の一つであり、よい資料を選び、開発することが、魅力的な授業づくりには欠かせない。

① 道徳の時間の資料の多様化

道徳の時間で用いる資料が、子どもにとってどう受けとめられるかが、授業の成否に大きくかかわる。道徳の時間では読み物資料が多くなるのはその特色から当然であるが、より魅力的な読み物資料を開発するとともに、子

多様な資料の選択・開発

- ・資料とその素材を多方面から集める
- ・教師自身が魅力を感じる資料を選び出す
- ・資料の表現形式を柔軟に発想する
- ・活動が発展する資料の形式を工夫するなど

どもの心に響く多様な表現形式の資料を選び、開発することが大切である。

② 資料の多様な活用方法の工夫

資料の授業での生かし方についても、例えば、主人公の心情を共感的に追う展開だけではなく、右のように、感動を大切にした展開や問題解決的な展開などを考えることもできる。

また、資料の内容に合わせて道徳の時間の一部でアイマスク体験などの模擬体験をしたり、ゴミの分別などの実際的な活動を一部取り入れたりするなど、体験的な活動を伴わせて実感的に資料の理解を深める方法も考えられる。

資料の多様な生かし方

- ・登場人物への共感を中心とした展開
- ・資料への感動を大切にする展開
- ・問題解決的な思考を重視した展開
- ・登場人物の行為から学ぶ展開 など

(3) 学習活動や指導体制などに工夫をする

道徳の時間では、資料をもとにした一斉の話し合いが多く進められているが、それに限らず、学習の場や方法、集団の在り方、時間の取り方などに柔軟な発想をもって、創意ある授業を生み出していきたい。

① 多様な学習活動の取り入れ

道徳の時間での学習が実感が伴うものとなり、より生きて働くものとなるように、学習活動を工夫したい。

例えば、子ども自身のもつ体験の生かし方として、役割演技、動作化、劇化、イラスト化などの多様な表現活動を取り入れることは学習を楽しくし、子どもの考えを深める。また、討論的な話し合い、様々な観点からグループ化しての話し合いなどを試みることも考えられる。

学習活動の工夫

- ・日常体験や学習体験を生かす工夫をする
- ・多様な表現活動の工夫をする
- ・観察や調査、取材などの活動を取り入れる
- ・話し合いの進め方を組織化し工夫する など

② 学習の場の設定の工夫

教室での学習において、座席形態を工夫することはしばしば見られるが、学習の場自体を、特別教室や校庭、学校外の場所にすることで、学習の幅を広げることができる。

例えば、自然愛をはぐくむために、校庭や公園で学習をしたり、郷土への愛着を育てる学習の際に資料館や図書館に場所を移したりして学習を深めることなどが考えられる。

学習の場の工夫

- ・教室の座席等の形態を工夫する
- ・オープンスペースや図書室等で行う
- ・コンピュータなどの情報通信機器を活用する
- ・校庭や自然環境を生かした場で指導をする
- ・地域の図書館や博物館等を活用する など

③ 指導する時間の柔軟な発想

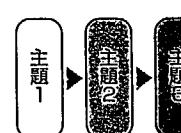
道徳の時間の授業は1単位時間に1主題を設定して行われることが多いが、重点内容の複数時間扱いや、他の教育活動との関連を図った展開などを工夫することも考えられる。

指導する時間の柔軟化

- ・1時間1主題を軸として弾力的に運用する
- ・重点内容などで複数時間扱いを考える
- ・授業時間の重点的な運用を工夫する
- ・他の教育活動との関連を考える など

また、資料の内容に合わせて道徳の時間の一部でアイマスク体験などの模擬体験をしたり、ゴミの分別などの実際的な活動を一部取り入れたりするなど、体験的な活動を伴わせて実感的に資料の理解を深める方法も考えられる。

A. 主題を連続させ 関連的に指導する



B. 重点内容を複数の 主題で構成する



C. 重点内容を他の教育活動と 関連させて指導する



こうした方法は、話し合いが深まること、学習と学習の間の調べる活動などが促されること、多様な形式の資料の活用へと広がりやすいことなどが利点として考えられる。そのためにも、このような指導においては、子どもの課題意識を継続させる工夫が必要である。

④ 指導体制の工夫

道徳の時間を道徳教育のかなめとしていくには、学級担任と他の教師等が協力しながら様々な指導体制を工夫することが大切である。

指導体制の充実

- ・校長や教頭が指導に参加する
- ・チームティーチングの方法を工夫する
- ・保護者や地域の人の協力を得る など

例えば、授業内容によっては、校長や教頭が参加する授業、複数の教師による授業や、地域から講師を招いた授業などを考えて、指導する側の体制も柔軟に考えるようにする。

⑤ 多様な学習集団を生かす工夫

子どもの学習集団については、学級内でテーマ別グループ等をつくることや、ときには、学級の枠を越えることも考えられる。

学習集団の多様化

- ・テーマ別グループ等による学習を工夫する
- ・学年や異学年合同の学習を工夫する
- ・他校や地域の人との交流を生かす など

例えば、学年合同で授業を行い、テーマ別グループに分かれて話し合うことによって、子ども同士の学び合いの幅を広げることができる。

詩禮

道徳教育は「スローフード」

農業休暇

四つめの「間」

添付資料